

より快適に、より新しく。各キャンパスの整備が進行中 東北大学新キャンパス構想

東日本大震災からの復旧工事が順調に進み、特に被害の大きかった青葉山東キャンパスの工学研究科の大型施設3棟についても2012年秋に着工の予定。これらを始め、本学の新しい研究施設は全て免震構造と自家発電設備を採用し、より安全なキャンパスを目指します。

川内キャンパス

新課外活動施設の建設に着手

老朽化が目立っていたプールの土地を利用し、これまで他キャンパスに分散していた課外活動施設を統合、さらなる活性化を図る拠点として、新課外活動施設の計画が進められている。施設は4階建てで、1階が文化系練習室と150席のミニシアター、2階が文化系練習室、3階が体育系練習室とトレーニング室、4階が25mの温水プールとなる予定である。施設の一部は、学生・教職員の福利厚生のほか、OB及び市民の方々の共生の場としても開放し、社会的有効活用を図る計画である。また、温水プールには開閉式ガラス屋根や太陽光集熱器を採用するなど、環境配慮型の施設を目指している。埋蔵文化財調査の後、本体工事に着手し、2013年度中の完成を予定している。



青葉山東キャンパス

人間・環境系 土木実験棟/レインガーデン 完成

土木工学専攻の平屋の実験室7棟の老朽化に伴う建替え集約化。将来的なキャンパスモールに面して設置したレインガーデンでは、実験棟の屋根の降雨水を外部のスロープを伴った循環プールに集め自然浄化をはかっている。



ヒートアイランドの抑制や非常用水源などとリンクした環境生態工学の実験装置もあり、キャンパスモールのコンフォートスポットにもなる。

マテリアル・開発系 マテリアル共同研究棟 完成

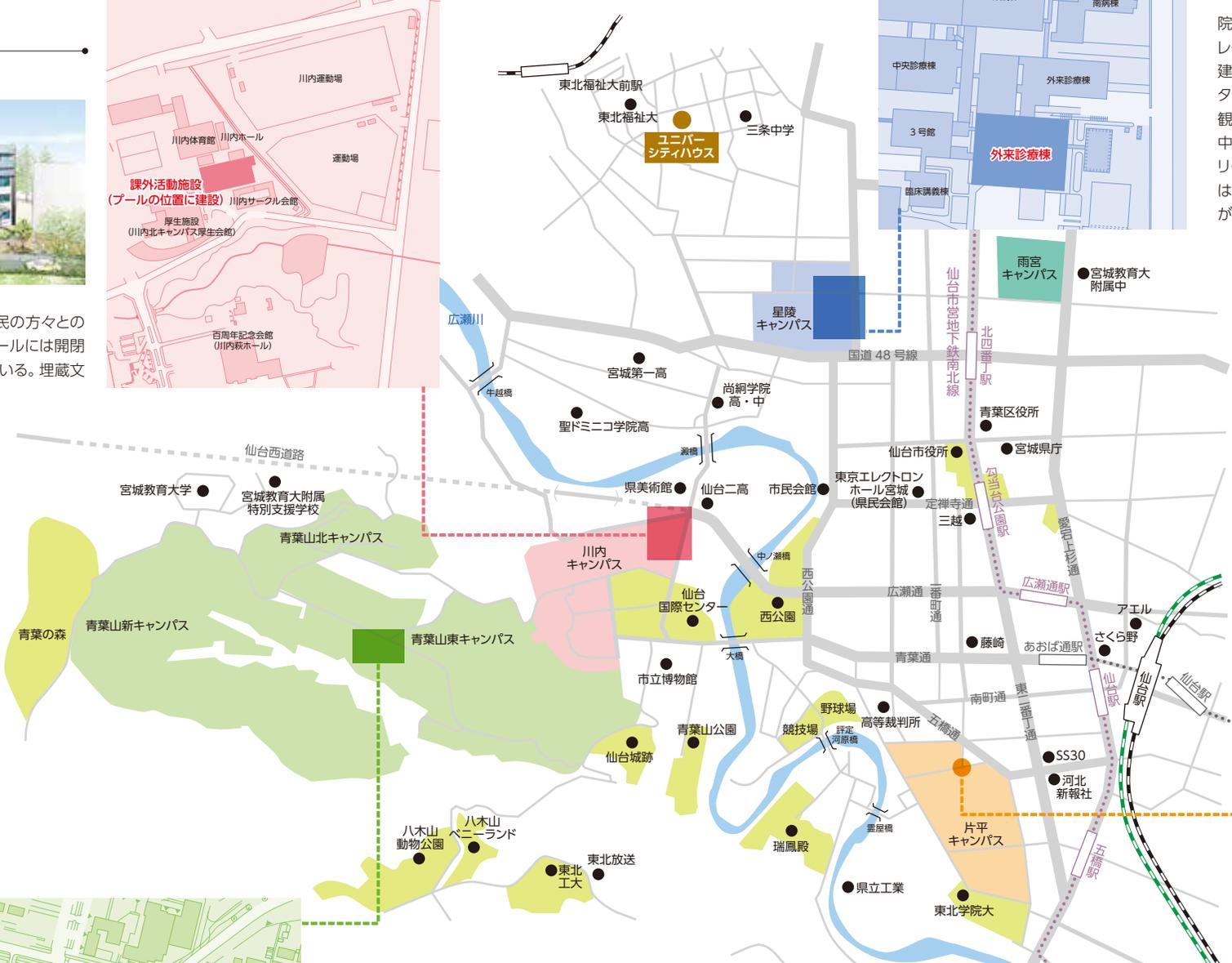
マテリアル・開発系の産学連携共同研究を誘引する場として、多様な用途に対応できる構造・設備をもった施設として整備。センタースクエアとあわせて青葉山東キャンパスのランドマークとなっている。



星陵キャンパス

外来病棟、歯学系総合研究棟の改修

外来病棟の改修はこれまで大学病院における一連の整備で目指されてきた、「ひとつの外来」を完成させる事業である。患者とスタッフ動線の分離や診療科の再配置等により、患者サービスが改善された。縦のリズムをもつ外観が、来院者を迎える新しい顔をつくりだしている。一方、「ひとつの外来」に統合された旧歯学部附属病院の建物は、歯学系総合研究棟へと改修された。外部フレームによる耐震補強が採用され、北六番丁沿いの周辺建物と調和した暖かみのあるタイル貼りの外装により、景観向上も図られている。整備中の「星陵キャンパスストリート」に面する一階部分にはウッドデッキのあるカフェがつけられている。



片平キャンパス

北門周辺整備が完了

片平キャンパスのメインエントランスである北門周辺を、東北大学発祥の地としての記憶を伝える近代建築や既存の樹木を活かし、歴史を感じられる空間として、また「開かれたキャンパス」の顔として扉や門を取り払い、広く開放的な空間へと再整備。

向かい側に整備中の片平北門会館と一体となって研究者同士や市民との交流が図られる賑わいのある空間を形成する。

さらにキャンパス内のメイン動線および市道の歩道部分を拡張し、歩行者に配慮した安全な環境を目指している。



ユニバーシティ・ハウス三条IIの建設に着手

国際化拠点整備事業 (G30) に伴う外国人留学生の増加に対応するため、既存のユニバーシティ・ハウス三条に隣接して、国際交流支援センター〈ユニバーシティ・ハウス三条II〉の工事が着手された。3棟からなる住居棟と円形のスチューデントラウンジが、緑豊かな中庭を囲む構成となっている。第一期同様、日本人学生と外国人留学生の混住形式であり、オープンリビングやキッチンを共用する生活をとおり、国際感覚や異文化理解を深め、社交性や協調性を養うことができる施設計画となっている。2012年度末の完成を予定している。

